

第2回 堺市総合交通体系検討庁内委員会 資料⑤ 利用者減少の要因

○利用者減少の要因

・・・p.1

利用者減少の要因

種別	事象	内的要因	外的要因
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○近年はほぼ一定の割合で減少を続けている。 ○南海本線は近年横ばい又は微増。特に定期外は昭和40年代と比べて増加。 ○沿線人口の大きな変動はなく、併用軌道区間ではむしろ増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○我孫子道での乗り換えが不便 ○南海電車との共通運賃制の廃止 ○運賃の値上げ ○運賃の割高感 ○ダイヤ改正による利便性低下 ○最終電車の時刻が早く、利便性が低い ○<u>宣伝や営業努力の不足</u> ○<u>交通機関としての認知度低下</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>自動車・自転車・二輪の普及などによる路面電車離れ</u> ○並行鉄道（南海本線や高野線）の利便性向上 ○並行鉄道（南海本線や高野線）との相対的なスピード低下 ○自動車交通や信号の増加による路面電車の表定速度低下 ○<u>交通機関としての認知度低下</u>
定期	<ul style="list-style-type: none"> ○昭和40～50年代の落ち込みが激しい。 ○昭和60年を境に、定期外を下回る。 ○1区間では、定期より回数券の方が安価。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道主要駅との結節がない ○<u>定期に割高感があることによる、定期から定期外利用（回数券など）への移行</u> ○磁気カードやICカードが導入されていないことによる利便性低下 	<ul style="list-style-type: none"> ○通勤・通学沿線で途中立ち寄りが可能なルートへの変更 ○地下鉄堺筋線の天下茶屋延伸など、他の交通ネットワーク拡大や利便性向上 ○<u>少子高齢化による定期利用の減少</u>
定期外	<ul style="list-style-type: none"> ○昭和60年を境に、定期を上回る。 ○1区間利用の減少が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>車両の2段ステップ化の遅れなど、バリアフリー対策が不十分</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>堺市内周辺地域などによる、大道筋を中心とした都心地域の活力低下</u> ○<u>恵美須町や浜寺駅前など、目的地の求心性低下</u> <ul style="list-style-type: none"> ※浜寺海水浴場の閉鎖（S36） ※水泳教室の普及による浜寺水練学校の地位低下 ○<u>堺病院など、沿線集客施設の減少</u> ○大魚夜市など、沿線でのイベント減少